

新宿通信

NO. 58

令和2年10月21日
東京都立新宿高等学校
進路指導部

- 大学入学共通テスト出願について
- 受験にかかわるスケジュールについて
- 中間I 考査 終了
- 科目選択の考え方 他

「思考を止めるな」

英語科 宇田川 和弘

新宿高校を卒業してから32年、満を持して母校に戻ってきました。しかし、私が通った校舎はすでになく、7階建ての新校舎に郷愁をそそるものは何もありませんでした。そんなある日のこと、下校放送にあの『シバの女王』が流れてきたのです。それを聴いた瞬間、懐かしさが一気にこみ上げてくるのと同じに、新宿高校に来たんだという実感がようやく湧いてきました。

在学時は陸上競技部に所属し、ケガや故障に悩まされた時期もありましたが、専門だった200mで南関東大会まであと1歩というところまで行けたことがよい思い出です。主将として、陸上競技の本や雑誌を研究して練習内容を作成したことは、教師になって授業計画を立てる時にも活かされていると思います。

その私が教師という職業を最初に意識したのは、小学校3年生の時だったかもしれません。当時行った郷土史学習の活動内容と班の仲間への面倒見のよさを評価され、「未来の社会科の先生がんばれ」と言われたことがきっかけだったように思います。

高校に入ってもその意識は変わらなかったもので、将来の職業のことで悩んだことはなく、むしろ何の科目の先生になるかが悩みでした。私は英語と数学が好きでしたが、好きと得意は必ずしも一致するとは限りません。2年生の時の数学（当時は「基礎解析」という科目）は講師の先生との相性が悪く、特に数列の出来が散々でした。いよいよ3年の科目選択という時、文系に行くか理系に行くか、ギリギリまで悩みました。結局2年生の時の数学が仇となり、文系（英語）への道を歩むこととなったのです。

ところが、大学4年の時に職業選択で悩むことになりました。3年の終わり頃からまわりの友人は企業への就職活動を始め、4年の半ばには就職先が内定したと喜ぶ者が増えていく中、教職志望だった私はひとり置いて行かれたという焦燥感に駆られたのです。しかし、不安と辛さを感じながらも、安易に企業に就職する方向へ流されなかったのは、教育実習へ行った時に、この仕事が自分に向いていると確信したこと、そして何より先生になることが自分の夢であったことが大きかったと思います。

私のように、高校時代に将来の夢を持っている人は少数派でしょう。ましてや勉強や部活動に追われる諸君は、じっくりと将来のことを考える時間がないかもしれません。ただ、「どれを選ぶのかということにあまり時間をかけたくないけど、失敗したくない」という安易な考え方では、自分に合う進路を選ぶことはできないと思うのです。ですから、思考を止めないでください。情報を収集するためのアンテナを張り、大人の言うことに左右されず、自分が幸福になれると思う道を自分の手で切り開いていって欲しいと思います。

○大学入学共通テスト出願について

3年生の大学入学共通テスト志願票を発送し、まもなく大学入試センターから「確認はがき」の第一陣が届く頃です。

担任の先生から「確認はがき」をもらったら、氏名や住所、登録教科、受験科目数などを、志願票のコピーと照らし合わせて確認してください。訂正等が必要な場合は11月4日までに学校で一括して大学入試センターに「訂正届」を出さなければなりません。日程に余裕が無いので、すみやかに確認しましょう。また、受験教科や受験科目数の変更も今回に限り受け付けてもらえます。万が一訂正や修正が必要な場合は、10月28日(水)までに担任の先生をとおして申し出てください。問題がなければそのまま「確認はがき」を保管しておいてください。紛失することのないよう、くれぐれも注意してください。

○大学の願書について

数年前までは、主な私立大学の入学願書を学校で取り寄せて校内で配布していましたが、この数年でほとんどの私大が Web 出願方式に切り替えているため、紙の願書の配布は行いません（と言うより、できません）。各大学の HP に出願の方法が詳しく載っていますので、受験を考えているところのものは早めにチェックしてください。

一方、国公立大学では、Web 出願と従来通りの紙の願書が混在しています。HP で確認のうえ、願書は各自で入手してください。願書の取り寄せについてはすでに配布している「テレメール願書請求カタログ」などを利用するとよいでしょう。大学入学共通テストの結果次第で受験する可能性の出る大学の願書は必ず事前に入手しておきましょう。また、国公立大学では後期日程も出願期間は前期日程と同時期です。

願書配布時期は各大学で異なるので必ずHPで確認しておきましょう。

○中間Ⅰ 考査 終了！

先週、中間Ⅰ考査が行われました。臨時休業期間があり、いまだ短縮授業の続く中ですが、だからこそ自分で勉強するための時間はしっかり確保

できるはずですよ。しっかり準備して臨めたでしょうか。また、結果は満足のいくものとなったでしょうか。

3年生は受験勉強や進路活動が本格化する中で、今回の考査となりました。今回と12月の考査が、最終成績を左右する重要な考査です。また、授業と受験とは別物ではありません。考査の振り返りに時間をかけ、考査でミスした箇所は受験で絶対にミスしないという意識が重要です。

○教育実習 始まる

10/19(月)～31(土)の2週間、教育実習生が実習を行います。皆さんと同じ、新宿高校での高校生活を経て、進路実現した先輩の、実際の大学生活の様子を聞く良い機会です。受験時の体験談や、アドバイスも聞けるでしょう。授業やホームルームだけでなく、積極的に話を聞いてみましょう。

○受験にかかわるスケジュール

進捗管理について

3年生の中には、いよいよ受験に向けた出願準備をしている人もいます。校内でも、担任の先生との面談や、書類の添削指導などをうける3年生の姿が見られるようになってきました。それにあたって重々注意してほしいことが、「スケジュール管理」です。出願締め切りや受験日はもちろん、書類の郵送は「消印有効」なのか「必着」なのか…。細かい箇所まで自分で把握し準備することはもちろんですが、そのスケジュールの中には、保護者の方や担任の先生、経営企画室の方など、さまざまな方の作業が必要となります。つまり、自分ひとりのスケジュールで準備を進めることはできないということです。まずは、保護者の方や担任の先生と、細かい打ち合わせをしっかりとってください。また、その後の進捗についても逐一報告するように心がけましょう。

どんなに受験勉強を頑張っても、受験に至るまでがバタバタと慌ただしくては意味がありませんし、出願でミスして受験できないという最悪の場合もあり得ます。十分注意してください。

国公立大学入試対策会報告

9月30日、前期終業式の午後に3年生を対象とした「国公立大学入試対策会」がありました。河合塾講師の方の講演を聴くことができました。近年の各大学の動向や、今年度の受験の傾向、受験に向けての実践的なアドバイスも多く、大変参考になりました。

○科目選択の考え方

2年生は、次年度の科目選択を決定する時期になっています。

科目を選ぶ際の一つの基準が大学入試科目です。自分の志望する大学の入試科目を調べ、それに対応できる科目選択をしましょう。河合塾の「栄冠めざして vol.2」を全員に配布しました。そこにすべての大学の受験科目が載っていますので参考にしてください。ただし、これは現3年生の入試の科目です。一年後、あるいは二年後に科目が変更になる可能性がなくはない（ありうる）ということも覚えておきましょう。

そこで二つ目の話になるのですが、入試科目だけを意識したぎりぎりの選択をするのではなく、余裕をもった選択をしてほしいと思っています。そもそも皆さんは受験生である前に高校生であり、将来、社会人として生きていくうえで必要な知識を幅広く学ぶ必要があります。18歳からの選挙権も認められるようになっていきます。社会のさまざまなことに関心を持ち、貪欲に学ぶ姿勢を持ちましょう。

それは、巡りめぐって大学受験にもどってきます。これからの大学入試では既成の教科の垣根を越えた合教科的な問題が増えていきます。分野の異なる複数の資料を関連づけて読み解く能力は、幅広い知識と柔軟な思考力があって初めて可能になります。さまざまな教科・科目を学ぶ意義はそうしたところにありそうです。

○11月4日は模試の日

11月4日は模擬試験の日です。1年生と2年生はベネッセの進研模試、3年生は駿台ベネッセマーク模試を受験します。どの学年の模試も自身の学力を正確に把握する上で重要な模試です。前回の模試の結果を踏まえて対策を講じましょう。

特に1年生は、初見問題を解く経験は少ないですが、不安になることはありません。模試では、毎日の授業で蓄えている知識を、応用し、はたらかせていく力が問われます。授業の振り返りをしっかりと行い、前回模試の反省を今一度見返してみてください。

◆今後の予定

大学入学共通テスト確認はがき到着

※科目等修正の最後の機会

10/25(日) 河合塾模試(校内実施)

11/2(月) 3年 午前：通常授業
午後：実力テスト

11/3(火) 祝日・文化の日

11/4(水) 実力テスト

先輩からの言葉

小指の爪の先の未来

朗読家 31回生 鈴木 千秋

コロナが世界を変えてしまうなどとは思えない昨年末頃、この原稿の依頼を受けました。いまでも、懸命に日々を模索されているだろうみなさまに、こんな落ちこぼれの私の紆余曲折の体験が、何かの役に立つかどうかわかりませんが、しばしおつきあいください。

この10余年ほど、朗読家として生計を立てています。20代前半で幸田弘子さんという素晴らしい舞台朗読家に出会えたことが、朗読家という道への始まりでした。40代を過ぎた頃からフェリス女学院大学と早稲田大学オープンカレッジで朗読の講師になり、それが収入の大きな柱になっていますが、コロナ禍で今年の4月から両方とも講座は中止。持続化給付金を頼りに、いまできることとして「源氏物語」の朗読に向き合う日々で、この通信が届く頃にも「ピアノと朗読で奏でる源氏物語」として、賢木から明石の帖を読む会を開催予定です。

高校3年の秋、担任との進路相談で、勉強もしていないのに偏差値の高い大学しか志望校として言わない私に、「希望を持つのはいいことだけど、いまのままでは小指の爪の先がひっかかるかどうかもわからないわね」とはっきりと言われて、たしかに、と思ったものです。そしてその後すぐの10月1日に、その担任の竹中幸子先生が脳溢血で急逝されました。まだ40代でとても張り切っていた先生の死はとても衝撃で、最後に受け取った言葉だけが私には残されました。彼女が否定的な意味合いで語った言葉を、私はあえて肯定的な意味に置き換えて、自分の夢を追うために「小指の爪の先の未来」を選んできたように思います。

「声」というものに惹かれて、中学から大学までずっと放送系のサークルに所属。将来の夢も漠然と「声」に関係した仕事でした。でももちろん世の中そんなに甘くはありません。

彼女の言葉通り現役合格はあり得ず、一浪して青学の日文に進みました。当時はまだ男女雇用均等法以前で、女子学生には一般職や一部の専門職くらいしか就職先がない時代。就活ではアナウンサー試験や出版関係ばかり受けては玉砕の日々。やりたいこととやれることが合致するほどの実力もなく、アルバイト先だった小さな美術系の出版社になんとか頼みこんで入れてもらいました。仕事はそれなりに充実していましたが、やはり声の道が忘れられずに2年近くで退社して声優の養成所に1年通いましたが、その所属にはなれず。バイト先の担当者から、新卒採用用の入社案内などを作成している会社を紹介されて、ここからまた新しい生活がスタート。まるで畑違いの金融系の入社案内の編集をそれから15年近く担当、実に多くの学びと経験をしました。

最初の会社を辞める前後に、先に書いた幸田弘子先生と出会っています。樋口一葉の作品を、本を持たずに暗記して語る幸田先生は衝撃的で、私も朗読の道を歩きたいと思い、教えているというカルチャーセンターに通いだしました。そこで教えていただいたのが「源氏物語」です。その後10年以上を経て本格的に朗読を教えていただくようになって、段々と朗読への道が開けていきました。先生の紹介で大学で教えるようになってから、それまでの編集の仕事をすべて辞めて、朗読だけに道を定めました。収入は激減しましたが、自分がやりたいと思うことを自分で決めたのですから後悔はありません。

ここまでの道のりでの経験や人との出会いがすべて融合して、いまの私を形づくっています。朗読は作品の世界を想像し、創造して、第三者に聴いていただくもの。表現するためには、他者に対しての想像力を持たなければなりません。だからこそ、失敗を重ねてもさまざまな経験が必要なのだとも。多分それは、朗読だけではなく、生きていくためにも一番大切なことのように感じています。いまの大変な時代の経験も、いつか必ず実を結ぶと信じて、立ち止まるのではなく、一歩ずつでも前を向いて歩んでいけたらと思っています。

この「先輩方の言葉」は、新宿高等学校同窓会である「朝陽会」の方々のご協力、毎号卒業生からご寄稿をいただいています。社会で活躍される皆さんの先輩方の貴重なメッセージです。

進路を考えるときに、ぜひ参考にしてください！